

# 伊藤冠峰

## 出自

享保 2 年 (1717) 三重郡東菰野村清水笹右衛門の次男に生まれる。生家は菰野で絹の糸反物を商いとする家であった。名を一元、字を吉甫、冠峰、逸人と号した。

## 遊学

延宝 3 年 (1746) ころ、名古屋に出て秋元(中西)淡淵に入門し学ぶ。

## 養家

冠峰は医術を伊藤玄沢につき修める。玄沢その才学を認め、妹婿に迎え伊藤姓を名乗る。

## 中西淡淵

尾張藩士で儒学者、雅寧。字は文彦。寛延年中、尾張藩主に従い江戸へ出て叢桂社を創立。子弟を教育する。宝暦 2 年 (1752) に没す。門人に細井平州、南沢大湫らがいる。

## 笠松隠棲

師の淡淵、平州が江戸へ出たあと、その塾は経書を大湫が、詩文を冠峰が講じた。義兄の玄沢は学資を助け励まし学業大いに進む。宝暦 6 年 (1756) 考えるところあり門人を大湫に預け美濃笠松に移住する。

## 南宮大湫

明和 6 年 (1769) 42 歳のとき江戸へ出て日本橋に塾を開いた。大湫が江戸へ下ってその妻を迎える路銀が乏しく、このとき 15 両の金を冠峰がつくり妻子を江戸へ送る。

## 友人細井平州

大湫より先に江戸へ出た平州は嚶鳴館を開き、明和 8 年 (1771) 会津藩主上杉鷹山に招かれて藩政改革を指導した。その治績と盛名を聞き西条、米沢、尾張各藩の招請があった。友人として同郷の南川金溪、江村北海、松平君山、千草惟忠(笠松郡代)らがあった。

## 遊歴

宝暦元年 (1751) のころ中国、四国、九州地方、関東地方も遊歴している。

## 朝鮮通信使に会う

宝暦 14 年 (1764) 朝鮮よりの通信使の南秋月、成龍淵ら学者、医師と尾張に休息した折、宿を訪ねて筆談を交わす。

## 帰郷

安永のころ故郷の菰野に帰り、鎌ヶ岳、御在所岳に登山して詩を詠んでいる。この他菰山客舎・菰山八絶など 15 首を作詩する。

## 著書

『緑竹園詩集』五巻、天明元年 (1781) 広瀬好之撰 (国会図書館)



## 墓碑

天明 7 年 (1787) 1 月 18 日死没、71 歳、冠峰法名釈浄和信士、笠松町上本町、真宗大谷派法伝寺。墓地内「藤桑合碑」とある。

## 系譜

冠峰 —— 玄適 —— 一元 —— 作次郎 —— 賢三 —— 玄適 (藤田屋薬局・調査)

## 資料

『伊藤冠峰の実績』伊藤信著

『笠松町史』昭和 53 年 3 月 4 日 伊藤登志氏